

令和3年度学校自己評価システムシート (県立春日部高等学校定時制の課程)

目指す学校像	基礎学力を身に付け、人権尊重の精神を養い、一人ひとりの生徒が生き生きと共に学び合う学校
--------	---

重点目標	1 安心安全な環境の中で、基本的な生活習慣を身に付けさせ、規範意識と自己管理能力を育成する。 2 「わかる授業」を実践し、進路に応じた学力の向上を図る。 3 キャリア教育を実践し、進路希望を実現する。 4 学校・家庭・地域社会への情報発信を通じて、魅力ある学校づくりを推進する。
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標					年 度 評 価 (月 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	不登校経験者や外国籍生徒が一定数在籍しており、個々の課題や悩みは多様である。コロナ禍の中でも生徒各々の社会的な自立をめざし、基本的な生活習慣を身に付けさせ、安全に配慮した生活が送れるように指導をしていく必要がある。	○中途退学者数を減少させる。	○教職員間の情報共有・連携 ○SC、SSWとの連携 ○特別支援巡回支援員の活用 ○家庭との連携 ○中学校との指導連携	○中途退学率が前年度より減少したか。			
		○安全で安心して過ごせる環境を保つ。	○新型コロナウイルスに対応したガイドラインの徹底 ○健康状況の把握と対応	○生徒の健康被害の件数が最小限に抑えられたか。			
2	落ち着いた環境で授業にきちんと参加する生徒が大多数である。今後さらに生徒にとって「わかる授業」を展開し、個に応じて社会人として必要な基礎学力を定着させることが必要である。20%超の外国籍生徒への日本語の定着も必要である。	○授業理解度を向上させる。	○教員相互の授業見学等による授業改善 ○ICT(BYOD等)活用 ○授業アンケートの実施	○「授業が理解できている」という回答率が向上したか。			
		○個々の生徒に応じた指導体制をより効果的なものとする。	○個に応じた指導(少人数、習熟度別、TTなど)の実施 ○外部指導者(多文化共生推進員、学習サポーター、特別支援教育巡回支援員)の活用	○外部指導者活用等の効果が認められ、成績不振者が減少したか。			
3	高校生活4年間で適切かつ健全な勤労意識や職業観を育成し、進路実現に向けた目的意識を培い、卒業後の進路満足率を今まで以上に向上させることが必要である。また、特別な支援を必要とする生徒の就労支援に関して、今年度も指導体制を整備してゆく必要がある。	○個々の生徒に応じた指導を行い、進路決定に繋げる。	○進路講演会、ソーシャルスキル講演会等の実施 ○総合的な探求の時間の活用 ○人間としての生き方(在り方)教育、人権教育の実施 ○特別支援教育巡回支援員等と連携しての個別の進路指導計画(就職面接指導・進学補習等)の充実	○進路決定についての生徒の満足度が向上したか。			
4	「学び直し」「やり直し」の場としての本校の存在意義をPRするとともに、HP等で学校の最新情報提供を定期的・継続的に行ってゆく必要がある。	○中学校・学習支援センター・保護者との連携を充実させる。	○学校見学を重視し、受検前の授業見学を必須とする ○中学校訪問等により安易な受検にならないよう協力を求める ○学校行事や部活動大会後でのタイムリーなHP更新	○個別の学校見学実施に伴い、本校定時制教育を理解した上で志願する割合が増えたか。			

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	令和 年 月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等	